2018年7月31日発行

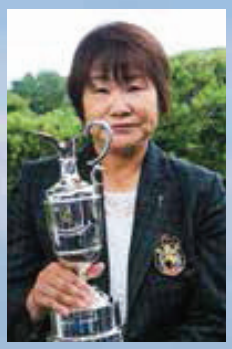
KGA GOLFER'S NEWS

NO. 127
2018夏号

一般社団法人
関東ゴルフ連盟

平成30年KGA主催決勝競技詳報

関東アマチュアゴルフ選手権
関東女子ゴルフ選手権
関東女子グランドシニアゴルフ選手権
関東グランドシニアゴルフ選手権



グリーンに上ったら
まずボールマークなおし。
来た時よりきれいにして
帰りたいから。

ウィズ・エイジングゴルフ協議会
中間報告

出席　鳥羽研二 国立長寿医療研究センター理事長
　　髙橋正孝 KGA理事長
司会　吉田裕明 KGA広報委員長

ゴルフの「認知症予防効果」を世界で初めて検証しました

ゴルフで「記憶力が改善されます!」

認知症予防のゴルフの効果を検証することを目的に、大規模な研究を実施しました。その結果は驚くなかれ、ゴルフで記憶力が改善されることを示したのです！

ゴルフ界と医療チーム協調で認知症予防へ

吉田　認知症の問題は日本のみならず、世界で取り組むべき課題です。

　2013年のG8ロンドンサミットでは、英国のキャメロン首相から、高齢化・認知症対策の共同宣言が発表されました。

　そうした背景を踏まえ、髙橋KGA理事長は『ウィズ・エイジングゴルフ協議会』を立ち上げ、国立長寿医療研究センター理事長の鳥羽先生とともに、ゴルフにおける認知症予防効果の検証をスタートしました。

　まずウィズ・エイジングゴルフ協議会会長でもある髙橋KGA理事長に、共同研究を実施した経緯と、研究の概要をお伺いします。

髙橋　ウィズ・エイジングゴルフ協議会という名称は鳥羽先生の発案ですが、発足準備期間を含めた活動を経て、親しみやすい名称として定着しております。

　同協議会発足の契機は、栃木県の中島KGA理事（東松苑）から、平成26年に「ゴルフと健康」をテーマにとのご提案をいただいたことによります。

体と頭を使うゴルフの認知症予防効果を検証

　認知機能低下予防には、有酸素運動と認知課題（頭脳の働き）を同時に行うことが効果的とされています。ゴルフはその要素が組み込まれたスポーツであると考えられます。一方、日本では現在4000を超えるゴルフ場や練習場があり、認知症予防の効果的な施設となり得ます。本研究では科学的な証拠に基づき、認知症予防の観点から、ゴルフの効果を検証することを目的とします。

KGA GOLFER'S NEWS
No.127
2018年7月31日発行
一般社団法人 関東ゴルフ連盟
Kanto Golf Association

1　ウィズ・エイジングゴルフ協議会・中間報告
　ゴルフで「記憶力が改善される！」

平成30年KGA主催決勝競技詳報
6　関東アマチュアゴルフ選手権
8　関東女子ゴルフ選手権
24　関東グランドシニアゴルフ選手権
26　関東女子グランドシニアゴルフ選手権

10　セルフプレーの採用でより多くの倶楽部で競技開催が可能に！

GREEN PAGES
13　歴史・KGA84年の歩み　草創期に活躍した選手たち
14　連載・1都10県地域通信（千葉県・埼玉県・東京都）
16　分科委員会報告（総務委員会）
18　ゴルフ場におけるサステナビリティとは

21　『TEAM KGA ジュニア』報告
28　トピックス
30　新規加盟倶楽部のご紹介
31　ゴルフ場利用税廃止運動について
32　from KGA

編集／関東ゴルフ連盟広報委員会
統括／吉田裕明（KGA広報委員長）
取材／塚越浩一（KGA広報副委員長）
　大竹　茂（KGA広報委員）
　久保田昌幸（KGA広報委員）
　高岡和弘（KGA広報委員）
　冨澤　仁（KGA広報委員）
　本條　強（KGA広報委員）
　鈴木通理（KGA広報参与）
　福島　靖（KGA広報参与）
表紙／関東グランドシニアゴルフ選手権・レイクウッドゴルフクラブ東コース
目次／関東女子ゴルフ選手権・出場選手
　（撮影・冨澤　仁KGA広報委員）

認知症の予防は今や全世界に共通の差し迫った課題なのです

吉田裕明　KGA広報委員長

その後、たまたま日本ゴルフサミット会議で同席した日本女子プロゴルフ協会の小林会長も、ゴルフでの健康増進に貢献したいとのこと。

その会議の議長は安西JGA名誉会長でしたが「日本ゴルフサミット会議を通じて、各団体に参加を仰いでは？」との助言をいただきました。

それからサミット会議の各団体のご賛同をいただいた結果、現在の組織がスタートしました。

活動にあたっては、各団体と協議を重ね、さらに鳥羽先生には医療側からのご指導をいただき、関係者各位が認知症の理解を十分に深めました。

こうして平成28年に認知症とゴルフの関係が、検証テーマとして承認されたのです。

実施にあたっての課題は、被験者（協力者）の募集でした。諸問題をクリアしたのちに日高市を中心に川越市でも協力者を募集したところ、400名を超える希望者が応募してくださいました。

その中から、研究に適格な方々106名にご協力いただきました。

まず半数の方々は従来通りの生活で、ゴルフとは無縁。それ以外の半数の方々には半年間ゴルフ（スクール）を体験していただき、両グループの比較検証をすることといたしました。そして平成28年4月からゴルフ体験が開始されて、半年におよびました。

そして今年の3月23日に『ジャパン・ゴルフフェア』の会場で、研究成果の中間発表をしました。

ここまでの鳥羽先生の、研究者としての真摯な姿勢に敬意を表するとともに、いろいろとアドバイスをいただいたことに、お礼を申し上げます。

「ゴルフで健康維持・増進を」ゴルフ各団体との協働でプロジェクトが発足しました

高橋正孝　KGA理事長

世界に例のない認知症の大検証がスタート

吉田　では鳥羽先生に、医療側からの研究成果のご説明をお願いいたします。

鳥羽　先ほど出ました英国でのG8サミットに続き、日本でも厚労省主催のトークイベントが開催され、その時のテーマは「認知症の予防とケア」でした。

さらに翌年にジュネーブで開催された学会で「認知症は予防できる」というテーマがありました。

こうした研究から、認知症の最大の危険因子は、知的刺激のない日常。二番目は体を動かさない生活そのものにあるとされました。ただし、実際の検証例はほとんどなかったのです。

たまたま国立長寿医療研究センターの島田先生が、施設付近の住民の方々にご協力をいただいて、認知症予防の研究をしておりました。

その研究成果として、体を動かすことで認知機能の低下を防げることがわかりました。さらに、脳の萎縮を抑制できるとの結果も得られました。このような研究は世界に2例しかありません。

認知症の予防には、体を動かすこと。また脳を使うこと。その前提からゴルフは「脳と体の運動」として、認知症予防に効果があるのではないか？　これは比較検証がなされなければ、ただの推測にすぎません。

この検証は、ゴルフが好きか嫌いかといった恣意的な条件を排して、公平性を保ってランダムに協力者を選ぶこと。それだけでも、非常に難しい作業なのです。

これまでに世界でも、検証が試みられた例はありません。実施にあたっては、ゴルフ場（日高CC）を提供していただき、プロゴルファーの方々に指導をお願いし、ラウンド検証はコースを解放していただくなど、人員・規模とも二度とできないほど、極めて大掛かりなものでした。

医療面では血液検査で、東京大学医学部、杏林大学医学部のスタッフ各位にご協力いただきました。

ボランティアの精神での皆様のご協力には、頭が下がる思いです。実験はつつがなく終了することができました。

吉田　最終発表を控え、現在の中間発表として、検証成果の一端をお聞かせください。

「脳と体の運動が認知症予防に効果あり」この予見にゴルフが最適では？

鳥羽研二　国立長寿医療研究センター　理事長

鳥羽　主な結果の一つをご紹介します。

ゴルフをやることで、短期の記憶力が改善されることがわかりました。

わかりやすく言えば「今、終了したホールは、あそこであそこのミスでトリプルでした」「数ホール前のパー3ホールではボギーでした」と、少し前の記憶を思い出せるようになったのです。この認知機能の改善は、大変重要なことです。日々生活する上では「昨日の食事で何を食べたかを思い出せる」ことこそ、何よりも重要なのです。

少し前の記憶能力が改善された原因は、頭を使いながら運動する、ゴルフならではの特長にあります。

ほぼ半年の検証で記憶力の改善が実証されましたが、課題はその能力に持続性があるかどうかです。

「半年でゴルフを止めたら、また記憶力が低下しそう」との怖れです。

最近では〝社会実装〟と言われる、研究の重要性が言われます。社会の役に立つための研究のことです。

高齢化社会でゴルフは、年齢を問わない生涯スポーツであり、持続可能性からしても認知症の予防として、理想的な運動でしょう。

QOL等）を比較し、文章を覚える検査において、覚えた後すぐに思い出す検査、覚えた後15分ぐらい経ってから思い出す検査、それらの総合スコアがゴルフによって向上しました。

シニア向けスクール運営マニュアルを各団体に配布します

吉田　今回の検証について、よく理解できました。今後のフォローアップに期待します。

一般論として、認知症についておうかがいします。日本における認知症患者は、どれくらいいるのですか？

鳥羽　日本は比較的調査が行き届いていますが、3年前の調査では462万人、今は500万人を超えるでしょう。今後15年間で、700万人から900万人と予測されます。

糖尿病のコントロールなど

SCIENCE NEWS

本研究の論文が2018年6月23日付で、英国の公衆衛生誌「Journal of Epidemiology and Community Health」に掲載されました。週1回ゴルフをする群としない群の事前・事後検査（認知機能、運動機能、

の認知症の予防法が確立されなければ、認知症予備軍を含めて最大で1500万人から2000万人、つまり国民の6人に一人が認知症になるとの予測も、あながち悲観論ではありません。

世界でもアジアでは高齢化が進んでいて、地球規模の問題になっています。医療費、介護費用を含む認知症にかかる費用は日本全体で16兆円、米国では70兆円の社会負担に増大するとの試算もあります。すでに社会問題化しているのです。

吉田　特効薬の開発は？

鳥羽　世界で研究されていますが、残念ながら特効薬はありません。

吉田　すると介護の問題も深刻化しますね？

鳥羽　社会全体で認知症の方を支える体制作りとして、地域の仲間や趣味のサークル活動も大切です。

吉田　高橋理事長、ゴルフでの地域活性化も、今後の課題になりそうですね？

高橋　ゴルフでの社会貢献は一つのキーだと思います。参加された各団体と歩調をあわせ、今後も〝健康な高齢者〟を、一人でも多く応援したいと考えております。

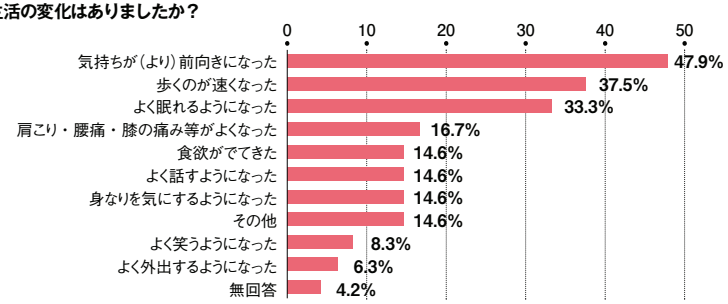
吉田　具体的な方法は？

高橋　今回の教室（カリキュラム）は、メディカルを含めて緻密な構成になっています。これを1冊にまとめた、スクールマニュアルを広く市町村の各団体に頒布できるよう計画中です。

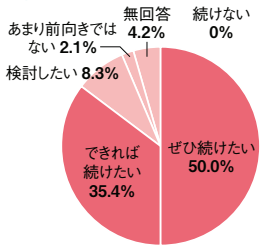
ゴルフは球を打つだけでは運動になりません。今回のマニュアルはウォームアップからクーリングダウンまで、健康維持に役立つ内容になっています。〝ゴルフスクールから健康スクールへ〟。これが今回の研究での、ゴルフ界にとっての大きな収穫です。

吉田　ゴルフ界からは健康維持のための社会貢献、医療面では認知症予防の可能性が示されたと思います。本日はありがとうございました。

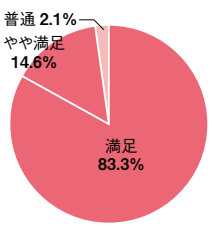
Q　ゴルフ教室参加前後で生活の変化はありましたか？



Q　ゴルフを続けますか？



Q　ゴルフ教室に参加してどうでしたか？



98%の参加者が「満足」

ゴルフ教室群の介入前後の比較では、記憶力の改善に有意差が認められました。

また、ゴルフ教室群への参加率は98.9%とゴルフ未経験者であっても高い参加率となり、介入後にゴルフ教室参加者に行ったアンケート調査から、約98%の対象者が今回の教室に満足感を持っていました。また、今後もゴルフを続けたいと回答した対象者は約85%と、ゴルフに対する高い興味が示されました。「気持ちが前向きになった（48%）」「歩くのが早くなった（38%）」「よく眠れるようになった（33%）」といった意見が多く聞かれ、心身の良好な変化を感じられる方が多くいました。

平成30年 関東アマチュアゴルフ選手権 決勝競技

ゴルフ一筋の青春、石坂友宏選手が関東を制して日本へジャンプ！

1優勝の石坂友宏。2第2位の関将太。3第3位の岩崎亜久竜。4第4位の鈴木晃祐。5第5位タイの庄司 由。6第5位タイの本間 佑。7関東アマ、4日間競技がホールアウト。

日光カンツリー倶楽部（栃木県）
7018ヤード・パー71
6月5日（火）～8日（金）
エントリー160名 出場158名

6月8日の天候 晴れ／気温：26.5度／風向：南南東／風速：2.9m/s

標高約460㍍の地に、戦略性豊かな18ホールが刻まれた日光カンツリー倶楽部。高原の風と明るい日差しの下、18歳のさわやかな新チャンピオンが誕生した。

1打リードで最終日に臨んだ石坂友宏選手は、後半にバーディーを重ね、ライバルを突き放した。

流れを作ったのが10番パー5。3打目をミスし、球はガードバンカーとグリーンの間のラフへ。だが、ここから58度のウェッジで直接、カップに沈めてみせた。

中学2年の時、関東ジュニアを制したが、その後は大きなタイトルとは無縁だった。しかし今回、石坂選手は「自信があった」と言う。

「日光CCなら持ち味の正確性と、得意のアプローチとパットで勝負できる」と感じたからだ。言葉どおり、ミスに泣いた他の選手を尻目に、着実にスコアを伸ばしていった。

父の勧めで、小学5年からクラブを握った。あまりの面白さに、神奈川県横須賀市の自宅そばの練習場でクラブを振り続けた。高校は通信制の学校を選択。今春、日本ウェルネススポーツ大に進んだが、拠点はあくまで横須賀市という異色の育ち方をしている。

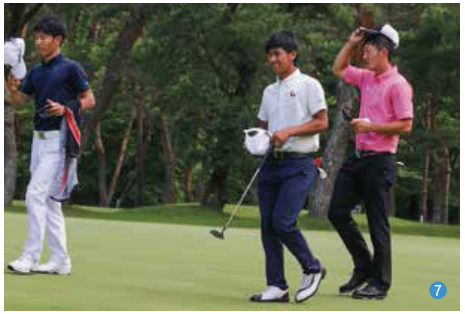
プロ志望だが、立ち居振る舞いはアマチュアそのものだ。毎ショット、目土袋を持ち、挨拶は実にきちんとしている。ゴルファーとしての教育をしっかりと受けている証だ。

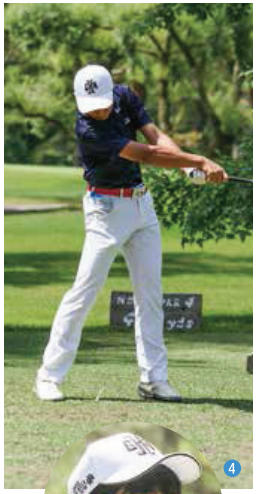
昨年は16歳の中島啓太選手が優勝したが、今年も石坂選手はじめ入賞者6人中5人を、大学生と高校生が占めた。

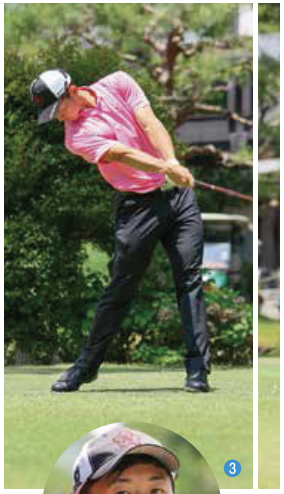
社会人で唯一人、入賞した庄司由選手は「年々、若手のレベルが上がっている。コース等の違いはあるが、第2ラウンド終了時点で153～4だったカットラインが、今は150でないと通れない」と話す。

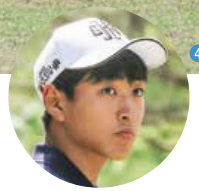
石坂選手の優勝は、その若手が育つ道が多様化しつつあることを、改めて示すことにもなった。

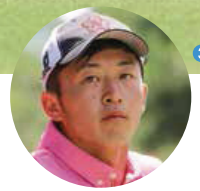
（取材・文 高岡和弘KGA広報委員）

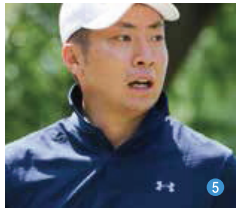












決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	4R	Total
1	石坂 友宏	関東アマ	66	71	69	69	275
2	関 将太	高萩	71	67	70	70	278
3	岩崎 亜久竜	東名	74	67	66	72	279
4	鈴木 晃祐	TEAM KGAジュニア	72	66	71	71	280
5	庄司 由	東千葉	67	70	74	70	281
5	本間 佑	鹿沼72	69	72	69	71	281

撮影・大竹 茂KGA広報委員、久保田昌幸KGA広報委員

平成30年　関東女子ゴルフ選手権　決勝競技

難コースで第2R（ラウンド）「67」の猛追 長野未祈（みのり）選手が余裕の圧勝！

「風邪気味なんです」と空色同様に、ちょっと曇った表情でスタートした最終組の長野未祈選手。

第2ラウンドを終えて4アンダーパーと、2位タイの高久みなみ選手、古家翔香選手の1オーバーとは5打差でスタート。特に第2ラウンドのスコア67（5アンダー）は開催倶楽部、ホウライカントリー倶楽部の関係者も想像だにしなかったと言う好スコア。

昨年秋、同会場で開催の関東ミッドアマ決勝競技で、男子でも誰ひとり出せなかった。この難コースでの60台！

平成28年、高校1年生のアマチュアとして第3ラウンドまで優勝争いをして、トップ女子プロたちを追いつめた日本女子オープンから1年半。さらにスケールアップした姿の自信のショットで、関東女子・第3ラウンドも前半バーディー2つと逃げ切り態勢へ。

ところが競技終盤、16番パー5で4メートルのバーディーパットを外すと、返しもカップをかすめ3パット。

17番パー3もバンカーから寄らずの連続ボギーとする。ここで、ひとつ前の組をプレーする本明夏選手とは3打差に詰まる。

そしてホウライCCを象徴する最終18番。長野選手のティーショットはフェアウェイのど真ん中へ。残り155ヤード、7番アイアンでのショットは池を越えてピンに重なるストレートボール。

「8番か7番アイアンで少し迷いました。前下がりのライなので、低い抑えたショットをしました」とは、安全策での逃げ切りとは思えない。

「はい、最終ホールはバーディーが欲しくて、ピンを狙いました！」

優勝後のインタビューで、はっきりとした自分の言葉で応える長野未祈選手。競技終盤の普通なら嫌な流れにも呑まれることなく、自信のショットでKGAタイトル2冠目（2015年関東ジュニア優勝）に輝いた。タイトルとともに本年6月19日から日本女子アマ開催の嵐山CCへ。

「関東の開催コースで、関東チャンピオンとして優勝を目指します」

その力強い意志の眼差しの奥で、すでに日本から世界の舞台での活躍を見据えていることだろう。

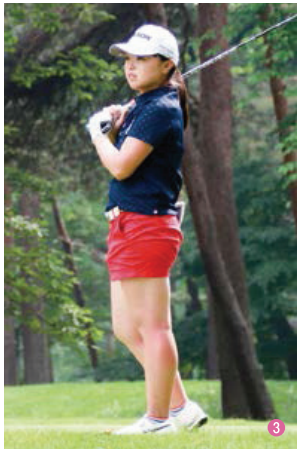
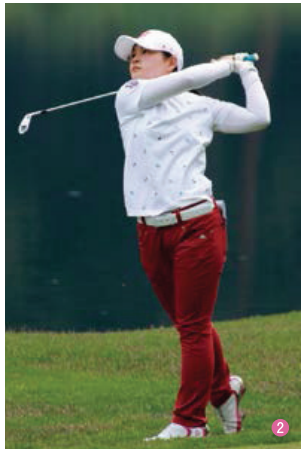
長野選手の可能性は無限大、頑張れ！

（取材・文　冨澤仁KGA広報委員）

競技中は表情を変えない長野選手。ホールアウトしてニッコリ。

5月17日の天候　くもり／気温：22.6度／風向：南南西／風速：0.6m/s

撮影・塚越克一KGA広報副委員長、久保田昌幸KGA広報委員

❶優勝の長野未祈。❷❻第2位の古家翔香。❸第3位タイの高久みなみ。❹第3位タイの本明夏。❺第5位の吉田鈴。
❼入賞者、左から。高久みなみ（3位タイ）、古家翔香（2位）、長野未祈（優勝）、本明夏（3位タイ）、吉田鈴（5位）。

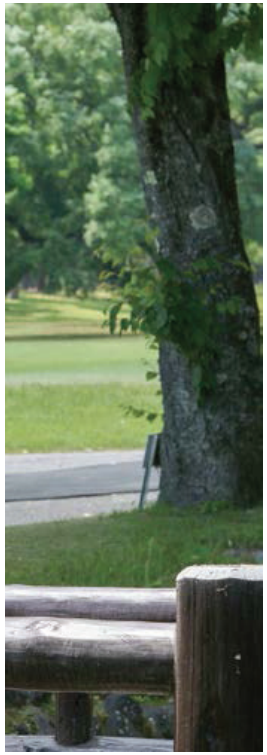
決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	3R	Total
1	長野 未祈	長太郎	73	67	73	213
2	古家 翔香	那須小川	72	73	71	216
3	本 明夏	TEAM KGAジュニア	72	74	71	217
3	高久 みなみ	水戸レイクス	72	73	72	217
5	吉田 鈴	TEAM KGAジュニア	74	72	75	221

KGA主催競技に新しい風
「関東倶楽部対抗」予選競技でセルフプレー（乗用カート）方式を採用しました。

出席
内藤正幸
KGA競技委員長
鈴木　淳
KGA競技委員会規則部会長
吉田裕明
KGA広報委員長

左から。鈴木規則部会長、吉田広報委員長、内藤競技委員長。



セルフプレー採用に選手・競技委員の反響は……

吉田　平成30年関東倶楽部対抗予選競技の6会場、関東女子倶楽部対抗予選競技の1会場で、共用の乗用カートを使用した、セルフプレー形式が採用されました。

　競技委員会も初の試みとあって、入念な準備を重ねられたことでしょう。内藤委員長、そのスタートにあたってのご感想は？

内藤　正直なところ「何が起こるかわからない」という不安はありました。ただ私自身、セルフプレーで不便を感じたことはなく、問題はないと信じておりました。

　結果、各会場の競技ともプレーファストを遵守し、競技者同士のルール裁定なども順調でした。

吉田　それは朗報ですね。倶楽部対抗となると、倶楽部を代表する選手が出場します。競技にも慣れているでしょうが、参加選手各位の声はいかがでしたか？

内藤　参加選手の中には「セルフプレーのほうが、慣れていていい」との極論も聞かれました。セルフ営業の倶楽部での競技開催に、今後の道が拓かれたと言ってもいいでしょう。

鈴木　私は群馬第2会場（ツインレイクス）でセルフプレーでの競技を担当しましたが、プレーの進行はまったく問題ありませんでした。

内藤　今年は春先の異常気象により、一部のコースでは芝にダメージを受けましたが、その対応にローカルルールの制定をするなど、担当競技委員長にはご苦労をおかけしました。

　ただプレーの進行では競技委員が、裁定に追われて走り回ることもなく、選手同士でスムーズに解決していました。

吉田　競技直前の現場での、ローカルルールの実施となると、競技委員や選手に混乱はなかったのですか？

内藤　自然災害や動物によるコースの損傷は、競技直前であれば修復は不可能になります。その場合、ローカルルールでの救済処置を採用しますが、地域（地元）の情報を調べ、起こりうるケースはすべてシミュレーションしています。

　また担当競技委員長をはじめ競技委員は、実際に現地の下調べも重ねていますので、自信を持って活動されていました。

鈴木　セルフプレーだからといって、特別なゴルフ規則を適用する訳ではありませんが、選手間で協力してもらわないと、カート（その組）は前に進めませんので、何よりも選手が、お互いを思いやる心が大切になります。

吉田　ゴルフには思いやり、気配り、エチケットが大切ですね。

セルフプレー形式の競技今後の課題は？

吉田　順調にスタートしたセルフプレー競技ですが、あえて今後の課題とするならどこでしょう？

内藤　プレーの責任は、常にプレーヤーにあります。ルールに関しても、プレーヤーが理解していることが条件です。それには勉強も必要でしょう。そうしたことからゴルフの精神が培われ、人との親睦も深まります。

吉田　競技者同士の協力の例では、キャディー不在のプレーでの、ボール探しがありますね。

内藤　私が尊敬する故・中部銀次郎さんの、一つの訓えを今も忘れません。

　同伴の組でロストボールが発生した時のこと、中部さんは「同伴競技者のロストボールは、その組のトップハンディの責任だ」と、なんと、ご自分のミスだと悔いていました。

　確かに、プレーヤー同士でボールの行方を確認していれば、ボール探しなどの余計な時間は短縮できるでしょう。私も競技者としてはもちろん、指導的な立場からも「ボールの行方をよく見て」と教えています。

鈴木　カートの扱いやカートを停める位置など、普段はキャディーが何気なくやってくれていることにも、選手間で気を配っていただく必要があります。

　内藤委員長から、選手を信じてそのあたりのことをキャプテン会議において、しっかりと各チームのキャプテンに説明するようにと指示がありました。我々担当者は会議において、かなりの時間を割いてこのことをご説明しました。

吉田　キャディーの手助けを借りず、スロープレーなどの問題は起きませんでしたか？

鈴木　私が担当した会場では逆に、セルフプレーのほうがプレー時間は短縮され、トップスタートの組はハーフ2時間を切ってラウンドしていました。選手を信用して、ローカルルールを適切に制定すれば、混乱は起きないのです。

　セルフプレーが原因となる規則違反は、報告書を見る限りなかったと認識しております。その意味

撮影・大竹 茂 KGA広報委員

米国のアマチュア競技はセルフプレーが主流です

でも今回は、キャプテン会議の重要性を再認識しました。

吉田　キャプテン会議では、どのような発言があったのですか？

鈴木　群馬地区での声です。昨年まではキャディーの確保が困難なことから、関東倶楽部対抗競技の開催を辞退していた倶楽部の皆様から「来年から手を挙げられる」との声も聞かれました。

「倶楽部間の親善と会員相互の交流」を目的とした、関東ゴルフ連盟の設立主旨にも合致する流れとなることも、期待できると思っています。

2019年の新規則とセルフプレーについて

吉田　2019年にルールが大幅に改正されます。スロープレーの解消、セルフプレーの増加に対する必然でしょう。競技委員会としての対応はいかがですか？

鈴木　新規則の要点は、やはりプレーファストだと思います。「速くプレーしようよ」が根幹になっていますので、例えば球探しが5分から3分に、ショットは40秒以内に、準備ができた選手からプレーするなどと改正されます。

　また、新規則ではゼネラルルールで距離計測器の使用を認めていますが、委員会はその使用を禁止するローカルルールを採用することができるため、今後、その議論が必要になるでしょう。

内藤　競技委員会としては、市販の距離計測器の性能を精査した上で、公平に使用されるように調査中です。

　例えば距離計測器に、高低差を計測できる機能が組み込まれているとします。この機能だけを使用禁止としますが、指先の変換操作だけですから、調べようがないのが現状です。

　ゴルフはレフェリーのいない唯一のスポーツですから、その精神を大切に、自主性の尊重を第一と考えます。自主性、つまり自己責任で言えば、欧米はじめ世界のゴルフ競技は、セルフプレーが主流なのです。

鈴木　世界のほぼ半数を占める米国のゴルフ場では、セルフプレーで半日でラウンドを終了するのが通常です。

内藤　ゴルフ場の設計自体が、英国（スコットランド）のリンクスと米国のモダンコースでは大違い。リンクスでは「どこに打つの？」と、キャディー頼みになるコースも多いですね。

吉田　そういうリンクスコースでも、現在はキャディー付きの競技のほうが、むしろ例外ですね。

　全米オープンなどは予選競技をセルフプレーで、本戦は帯同キャディーを認めるとなっていますね。日本でも競技のセルフプレー化は進むでしょうか？

内藤　今回の関東倶楽部対抗予選競技を契機に、他のKGA主催競技にも波及すると思われます。

吉田　内藤委員長ご自身は、セルフプレーの楽しみ方について、いかがお考えですか？

内藤　ルール裁定を含めて、自己責任というゴルフの精神からすれば、セルフプレーが本来の姿でしょう。私個人のプレーなら、セルフプレーは好きです。

吉田　ありがとうございました。内藤委員長がご紹介された中部氏の言葉、「同伴競技者のロストボールは、その組のトップハンディの責任だ」との訓えが、私の心にも響いています。

History

KGA 1935～2018（第2回）草創期の人々

代表選手は日本ゴルフ発展の牽引役として今日に遺る傑作コースを数多く設計しました

　関東ゴルフ連盟が発足した昭和10年（1935）は、太平洋戦争の戦雲が覆う直前の、つかの間の平穏な時代でした。

　そんな中、第1回関東倶楽部対抗は、出場した8倶楽部の代表選手が、日没過ぎまで36ホールを戦い、暗闇の川崎GCをホールアウトできたのは、各組の8人までした。

　結果、東京GCが見事に優勝。個人成績の第1位は東京GC所属の赤星四郎選手（78・76）で、第2位は藤澤CC所属の、弟の赤星六郎選手でした。

　赤星兄弟の、我が国のゴルフ界への貢献は計り知れません。六郎選手は留学先の米国でゴルフを学び、帰国後の1927年に第1回日本オープンを制し「プロより強いアマ」として以後、誰にでも広く技術指導をしました。

　ゴルフ場の設計でも四郎氏は、20年代アーリーアメリカン・コースの設計手法を、日本の風土に根付かせました。

　第2回となる翌1936年の関東倶楽部対抗（注・参照）は、代表選手による英国伝統の総当たりの3種マッチプレーの形式で、霞ヶ関CCが長期戦に勝ち抜いての優勝でした。

　その代表選手には藤田欽哉氏、小寺酉三氏、井上誠一氏がいて、3人とも傑作コースを数多く設計しました。

　関東8倶楽部では霞ヶ関CC東が藤田欽哉氏と赤星四郎氏らの合作、程ケ谷CCは赤星四郎氏の設計、相模CCと我孫子GCは赤星六郎氏の設計、鷹之台CCと霞ヶ関CC西の設計は井上誠一氏。戦前に消滅した藤澤CCと武蔵野CCも、赤星四郎氏のコース設計でした。

　こうしてみると、東京GC朝霞（C・H・アリソン氏の設計）以外は、コース設計した全員が8倶楽部対抗の代表選手だったのです。

　戦前は職業（プロ）ゴルフコース設計家は存在せず、手弁当でのボランティアでした。とはいえ洋書のゴルフコース設計マニュアル本を独習して、十分な知識を得ていました。またゴルファーとしての自身の腕と脚と眼で、コースへの感性を培っていました。

　驚くべきはその作品性の高さです。84年を経た今日でも、全倶楽部が〝日本のトップ10コース〟に、ランクされるほどの傑作なのです。

　関東倶楽部対抗は単なる競技の勝ち負けではなく、人間同士の交流を通して知識を深めたことでしょう。その結果、貴重な宝として、今日の私たちに傑作コースが遺されているのです。

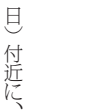
第2回『関東倶楽部対抗』の優勝を記念して、霞ヶ関CCが自作した優勝盾。80数年を経てなお、輝きを失っていません。

※注・KGA創立以前の『関東カップ』を第1回大会とするとの歴史もあります。

連載●1都10県地域通信　第3回・東京都・埼玉県・千葉県

高齢化・会員減少傾向に歯止めの対応（東京都）
来場者増ながらジュニア層の開拓も（埼玉県）
国際空港の利便性で海外来訪者を誘致（千葉県）

東京都



佐藤 敏明 副理事長

体協のゴルフ協会や市区町村のゴルフ協会と積極的に協働

Q 都内の活動の最重要課題は？

東京都には連盟加盟倶楽部が14倶楽部ありますが、各倶楽部とも会員の高齢化にともない会員数が減少傾向にあり、あわせてゲスト来場者数も減少している現状に、歯止めをかけることが共通した課題です。

こうした環境の中で各倶楽部は、それぞれに特徴を活かして来場者数の確保に取り組んでおりますが、ゴルファーの負担を軽減して、来場者の増加を図るためにも、連盟が進めるゴルフ場利用税廃止運動を地域でも推進して、来場者数の増加に結びつける必要があると思います。

Q 特に成果のあった都内の活動は？

東京都はゴルフ場の数は少ないものの、プレーヤーの数は圧倒的に多い、という特徴を持っております。

各市区町村には体協に加盟したゴルフ協会が存在し、国体を目指すアスリートゴルファー、ジュニアゴルファーに加えて生涯スポーツとしてゴルフを楽しむ人の多くが、この協会の会員として活動しています。

昨今、こうした協会の対抗競技が東京都の各倶楽部で開催され、増加しつつあることはゴルフの普及拡大に大変有意義なことであり、積極的に会場の提供に務めたいと思います。

Q 地域を活性化する実施策は？

ゴルフはスポーツの中でもっとも無理なく老若男女が生涯楽しめますから、高齢化が進行しても今までやっていた他のスポーツに加えて、ゴルフを始める方も数多く見受けられます。

そういう方々にゴルフを身近に感じていただくためにも、連盟が各市区町村のゴルフ協会と連携を深め、ゴルフが高齢者の健康増進に有効であることを積極的に紹介し、地域に根ざしたシニア教室、ジュニア教室やハンディキャップ競技会を開催するなど、幅広い方々が気軽にゴルフに親しめる機会を提供することが大切だと思います。

埼玉県

池谷 正成 副理事長

県民ゴルフデーなどで会員制倶楽部も開放

Q 県内の活動の最重要課題は？

埼玉県は関東ゴルフ連盟加盟ゴルフ場数では、4番目に多い県です。県全体の入場者数は400万人を超え、前年比2・24%増となりました。

また、ゴルフ利用税非課税の来場者（注・参照）は8・5%増の88万人を超えております。今後、ゴルフ人口の高齢化がさらにすすみ、2025年には団塊の世代のすべてが後期高齢者となるため、県全体でゴルフ人口拡大に向けた取り組みを行わなければなりません。特にジュニアと呼ばれる10歳代とともに、20歳～30歳代への施策も必要と考えております。

Q 特に成果のあった県内の活動は？

毎年、埼玉県民の日（11月14日）付近に、埼玉県ゴルフ場事務連絡協議会主催の「県民ゴルフデイ」を実施しております。

埼玉県内在住者または勤務者が対象で、会員制の普段ラウンドの出来ない名門クラブを、特別料金でプレーが出来ることなど、県民の皆様には非常に好評をいただいております。昨年は58のゴルフ場で行い、2500名の方がプレーをされました。

また、夏に埼玉県ゴルフ連盟主催で「夏休み　親と子ジュニアゴルフプレー&レッスン会」を開催。親と子でハーフの薄暮プレーやゴルフ場でのレッスン会を行い、エチケット・マナーの向上を含めたジュニアの活性化を図っております。

Q 地域を活性化する実施策は？

2020年の東京五輪で、ゴルフは埼玉県にある霞ヶ関カンツリー倶楽部で開催されます。日本のゴルフ隆盛の起点となったと言われている、1957年に同倶楽部で開催されたカナダカップの再来となるかと、大いに期待を寄せております。

オリンピックは夏に行われるため、過酷かつ繊細なコース整備が要求されます。近隣のキーパーも応援に行くと思われることから、オリンピックを通じて世界基準のコースメンテナンスを学ぶこととなると思います。

このきっかけも含めて、ゴルフ人口が増加し、より良いコースが提供できるよう、今後も取り組んでいきたいと思います。

千葉県

菅 千太郎 代表理事

交通の至便さを活かし集客、売り上げ全国一

Q 県内の活動の最重要課題は？

千葉県のゴルフ場入場者は約800万人で、売上高とともに全国1位。大都市東京に隣接し、北部地区は元来、立地や交通の便に恵まれた環境で入場者数を確保しています。

中南部地区は東京湾アクアラインや圏央道の交通網が整備され、県外、特に横浜・川崎方面からの来場者が増加しています。

今後は県内の各ゴルフ場がそれぞれの特長を活かすことより、県内外にその魅力を発信し、さらなる入場者数の安定確保を目指します。人口減少化にともなう将来の不安解消に当たっては、羽田・成田両国際空港に近い利点を活かし、インバウンドのゴルファーの増大を目指します。こうした当県にもっとも相応しいゴルフ振興策を確立するため、関係各位の総意に基づく体制が必要だと思います。

Q 特に成果のあった県内の活動は？

当県ゴルフ協会は「千葉県民の日」の協賛事業として「チャリティー・ゴルフフェスタCHIBA」を、毎年7月下旬から9月上旬の42日間で開催し、今年で第28回目を迎えております。例年数多くの県民や同伴ゴルファーから、チャリティー募金への多大なご協力を賜り、県内の社会福祉団体に福祉活動車両（寄贈累計72台）を贈り、大変感謝されております。

この活動は県ゴルフ場支配人会の小委員会が中心となり、100を上回る協会加盟ゴルフ場が共通の趣旨に賛同して行われており、大変有意義な事業となっております。

Q 地域を活性化する実施策は？

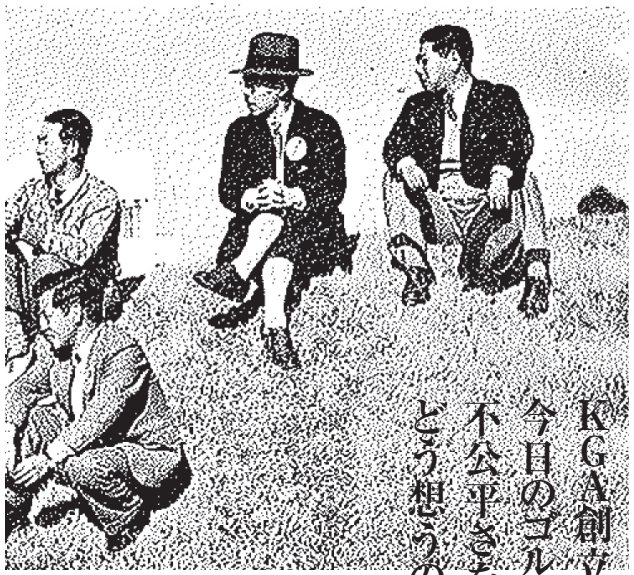
当県ゴルフ協会とゴルフ場支配人会は、十数年前にゴルフ活性化委員会を設置しました。「ちばけんジュニアゴルフ教室」を毎年春季と夏季の2回、5地区で合計10回の開催を実施。対象は小・中学生ですが、ほとんど小学生で、ゴルフ場支配人や所属プロの協力を得て、将来のゴルファー発掘が続いています。

また、一部地域では市のバックアップもあり、学校との交流を開始し、小学生にはゴルフ場施設見学やスナッグゴルフ等を、中・高生には職場見学と、体験ゴルフをセットにしたバスツアーを企画し、将来の就職先候補に加えてもらう等の試みも行われております。

※注・18歳未満または70歳以上の来場者

各委員会委員長に聞く「よりひらかれたKGA」を目指して
一般社団法人化の2年目にして解決すべき課題は多岐にわたります

総務委員会
菅 千太郎委員長



KGA創立時の先達は今日のゴルフ場利用税の不公平さをどう想うのだろう。

――昨年の関東ゴルフ連盟、一般社団法人化にあたっては、総務委員会が中心になってのご活躍だったことでしょう。現在の総務委員会は、主にどのような活動をしているのですか？

菅 KGAが一般社団法人化して1年を過ぎ、いままでの人格なき組織とは異なった、社会性を意識した「よりひらかれたKGA」を目標とし、実行しています。

――具体的に現在進行中なのは、どのような活動ですか？

菅 まず、ゴルフ界こぞっての悲願である「ゴルフ場利用税」の撤廃を、ゴルフ関係各団体と歩調を合わせて、引き続き訴え続けていきます。

また、団塊の世代の高齢化にともない、70歳以上の方のゴルフ離れが深刻化しています。対象の方々がゴルフを諦めないよう、グランドシニア競技などを通じて働きかけています。これには各都県の体協との協調も、大切な課題になります。

――そうしたゴルファー人口の現状維持活動にとどまらず、より積極的に、ゴルフ人口の底辺拡大策にも期待したいところなのですが？

菅 現在、冬場の積雪でゴルフのできない雪国の加盟倶楽部の会員さまへ、雪のないコースでのプレーを紹介するなどの便宜を検討中です。すでに現在、対象地区のKGA加盟倶楽部へのアンケート調査を実施中です。

――ゴルファーの声の、集計結果が待たれますね。

菅 さらに今後、総務委員会内にゴルファライアンス小委員会を設け、冬季クローズ倶楽部会員の、優待受け入れについて具体的に検討していくことになるでしょう。

――ゴルファーにとって、望ましい方向の解決プランに期待しています。

菅 高橋理事長からも、そうしたご指示をいただいております。現在は「検討中」となっております。ご報告はもうしばらくお待ちください。

KGA創立当時、東京GC朝霞での倶楽部競技観戦風景。

――第2期事業計画（平成30年4月1日～平成31年3月31日）は、ここまでお話しいただいたことが骨子ですね？

菅 はい。総務委員会としましては「社団法人として健全な組織運営を維持するための活動を継続する」ことです。

税対策部会では「ゴルフ場利用税廃止運動を推し進める」よう活動しております。

体協部会は「アマチュアゴルフ団体間の情報交換により、都県が抱える問題点の確認、検証を行う」となります。

どの事業計画も実施は簡単ではありませんが、KGAのスローガンである「よりひらかれたKGA」に忠実に、組織の風通しを良くして実務に邁進いたします。

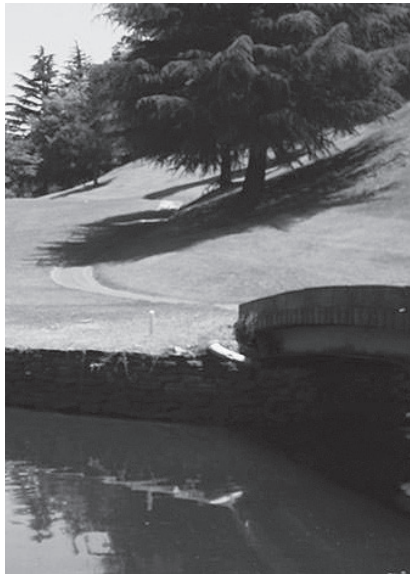
――ありがとうございました。

KGAグリーン委員会主催『第1回ゴルフ場におけるサステナビリティ講習会』の現場報告

検証・ゴルフ場における サステナビリティとは？

●小関 洋一 フリーランス・レポーター

Report



平成30年2月5日、大相模カントリークラブにおいて『ゴルフ場におけるサステナビリティ講習会』が開催されました。

この講習会の標題に『生き残りをかけて・今 我々がなすべきこと』とありますように、今後、ゴルフ場の存続が問われる重要なテーマを含んでいます。

●

そもそも「サステナビリティ」（持続可能性）とは何か。

もともと「地球の未来を守るため」に国連が主導する「持続可能な開発目標」において用いられている用語です。具体的には人・地球・利益の3つの観点から、実現されるべき開発の考え方です。

まず「人」とは、現在の世代のニーズを損なうことなく、将来の世代のニーズを満たすこと。次に「地球」とは、エコロジカルの観点から、自然と環境との調和を目指します。そして「利益」とは、経済面からも実行可能であることです。

サステナビリティは、ゴルフコースの管理・運営においても、いまや大いに求められる姿勢です。そのため昨年3月にはR&AとJGAの共催で、横浜CCで『サステナビリティセミナー』が開かれました。そして、そこでは「ゴルフコースの改造や管理で、どのようにしてサステナビリティに取り組むべきか」を中心に、基本的な姿勢が示されました。

一方、今回のKGAグリーン委員会主催の『第1回ゴルフ場におけるサステナビリティ講習会』では、基本的な考え方に加え、すでにサステナビリティを取り入れているゴルフ場の担当者にも登壇していただきました。その講演では画像等を使う

密度の高い講習会に参加者も真剣です。

ソーラーパネルの設置例

ソーラー発電所の詳細

設備発電量●100,000Kwh　**設備費用**●（パネル・キュービクル等）56,481,000円　**契約買電価格**●38.9円/Kwh（第1期契約）　**平均収入**●4,300,000円（年間）　**メンテナンス費**●300,000円（年間）　**投資費用の回収**●14年見込み

日高CCにてガレージの屋根を活用するため、ソーラーパネルを載せソーラー発電所を設置。ソーラーパネルの選定に当り重量はあるが発電効率の良いシリコン系か、重量の軽い有機化合物系かの検討の結果 、充分荷重に耐える建物であることからシリコン系に決定。なお発電量は全量買電することとなった。

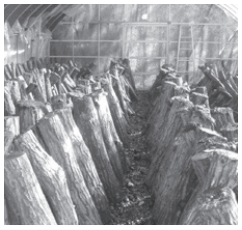
発電システムの効果（この発電所の発電量実績と同等の発電をした場合のCO2排出量を比較）

●石炭火力100t　●石油火力77t　●LNG火力61t

炭焼きは融雪剤にも利用

間伐・剪定の際に発生した木の幹や枝の一部を処理するための炭焼き。炭の一部は細かく粉砕し粉炭を製造し冬季雪が降った際の融雪剤として活用。大相模CCでは平成29年度は約628キロの炭を製造し13万9400円の売り上げとなりました。

シイタケ栽培は収穫の喜び



平成20年度よりチップ化施設を導入。製造したチップは遊歩道のチップ舗装として敷き詰める活用と、一か所に集積し長年自然発酵させ有機堆肥として畑に散布。そしてクヌギ・ナラ等、樹木の種類によってはシイタケ栽培の原木として使用し、栽培したシイタケもハウスにて販売。

などして、実施例が具体的に詳しく紹介されました。

当日の講習プログラムは次の通りです。

まず主催者を代表して、髙橋正孝KGA理事長が開会挨拶をかねて「ゴルフ場にサステナビリティの概念を導入すること」の意義に言及。

次に、牛木雄一郎KGAグリーン委員会参与による講義、「USGAグリーンセクションにおける、ゴルフ界の持続的成長を実現するサステナビリティ理論」と、全米ゴルフ協会の取り組み姿勢を紹介していただきました。

続いて動植物との共生をテーマに「ゴルフ場が実践する、サステナビリティとしての生物多様性」を、日本緑化センターの瀧邦夫理事が講義されました。

実務面からは「サステナビリティの実施状況を知るための事前アンケートの集計」の、結果報告がありました。

KGAグリーン委員会の木村正一参与は「ゴルフ場における成長戦略」を解説。実例としては「大相模カントリークラブでの取り組みと歩み」を、大相模CCの平本守取締役が報告。

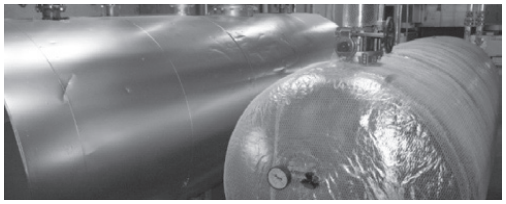
最後に、大相模CCの寺嶋孝政施設管理部長のご案内で「大相模CCの環境保護設備見学」をしました。

見学は①コースの管理作業で発生する刈り芝草や樹木の葉を原料とするコンポスト（堆肥）製造設備。②間伐や剪定で発生した樹木を有効利用する木炭の製造設備。③剪定、伐採木のチップ化の設備など。

ちなみに、こうした設備で作られた堆肥や粉炭（融雪剤）はコースや施設内で使用するほか、炭や木酢液、堆肥はクラブハウスの売店等で販売。

また、地元・愛川町で排出された緑化廃棄物は有料で処理を受け入れており、これら合計で年間約2400万円の売り上げを計上しているそうです。

当日、会場にはKGA加盟倶楽部だけではなく、KGAの委員、ならびにゴルフ業界関係者や関係メディア、計約80名が出席。終始、熱心に耳を傾ける姿が見られました。



重油ボイラーからLPG燃料へ転換

大相模CCでは開場以来43年間、重油燃焼ボイラーを使用。平成23年消防法改訂が行われ、これまでのタンクを次の3例から選び対応が求められた。1.新たにタンクを地上に設置する。30,000,000円 2.従来のタンクを除去し地下内部に新基準によるタンクを設置。35,000,000円 3.現在設置してあるタンクをクリーニングの上、内部にライニングを張り使用する。ただし施工期間は15日ほど営業停止することから多額の営業損失が発生する。10,000,000円。この3条件に対してLPG貯蔵タンク・気化燃焼装置に転換するプランを採用することで設備費を大幅に圧縮。LPG燃料への転換効果。エネルギーコスト20%削減。CO2排出量25%削減。専任の担当者不要で装置がコンパクト。LPGタンクへの補給は業者側のモニターにより適時に行われる。深夜電力使用の温水供給設備の導入。

日高CCでは開場50周年を迎え浴場の大幅改修を計画し、この中で重油燃焼給湯システムの効率化を進めることとなった。

1.深夜電力による温水を一次保温タンクに貯める。（エコキュート採用）2.午前中にLPG燃焼の給湯機を複数台設置し二次保温に貯め、正午以降の浴場利用者に供給する。

IMG ゴルフアカデミー派遣選手
小学生男子●犬飼泰我、大久保海、花村秀太、本大志。小学生女子●川畑優菜、伊藤ニ花、茶木詩央、手塚彩馨。中学生男女●新垣厚樹、仲宗根寛瑛、林恭平、藤澤諒、望月美甫。

TEAM KGA JUNIOR

「TEAM KGA JUNIOR」REPORTS

「TEAM KGA ジュニア」前半の活躍
昨秋からの始動でチームのパワーも全開！

卒業生の石坂君が関東アマを吉田さんが日本女子アマを制覇！

平成30年3月18日（日）、嵐山CC（埼玉県）で実施したクラスAラウンド研修会を最後に、「TEAM KGA ジュニア」の3名が卒業を迎えました。

卒業生の石坂友宏君（写真）は、今年の関東アマで、見事優勝しました！

4日間の終始安定した試合運びは秀逸で、今後も競技での活躍が期待されます。

吉田優利さんは「TEAM KGA ジュニア」からJGAナショナルチームに選抜され、今年の日本女子アマで涙の優勝！

これまで何度も吉田さんの嬉し涙、悔し涙を見てきましたが、まさに涙の数だけ強くなったのでしょう。この世代は永井花奈さん、畑岡奈紗さんらの強豪がひしめき、吉田さんも続いて東京オリンピック出場枠獲得の、列に並んだと言えます。

「TEAM KGA ジュニア」の快進撃は続き、今年の関東女子では吉田姉妹の妹、14歳の吉田鈴選手（写真・左）が5位入賞。

さらに13歳で出場した4選手全員が「TEAM KGA ジュニア」所属でした。

世界基準のチームを目指して「TEAM KGA ジュニア」を米国のIMGへ派遣

平成30年3月25日（日）～4月2日（月）に「TEAM KGA ジュニア」が発足して7回目となる、米国IMGアカデミーへの派遣を行いました。

今年度より「TEAM KGA ジュニア」選考会が9月に変更になったことで、派遣までの期間にさまざまな活動を実施したこともあり、従来にも増して選手たちのチームワークも良く、とても充実した1週間を過ごすことができました。

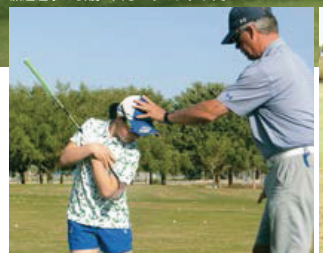
事前の英会話講習では、『自分から積極的に話しかける』というテーマを持って、英会話やアメリカの文化について事前に勉強したことで、担当コーチやルームメイトとのコミュニケーションも、多く取ることができました。レッスンはもちろん、国際感覚を養うという視点でも、とても効果的な派遣となりました。

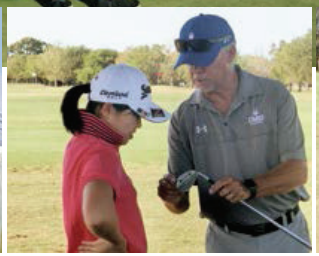
IMGゴルフアカデミーは施設、環境、ソフト面において、停滞することなく日々進化していることに驚きを感じました。

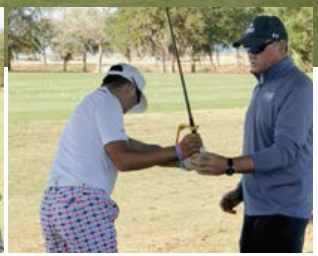
JGAのガレス・ジョーンズ・コーチも言っているように、ゴルフは個人スポーツですが、チームで活動することが重要で、その中で年上が年下を教える文化や風土を創造していくこと。「TEAM KGA ジュニア」の活動も年数を経て、徐々にその文化や風土ができていると感じた、今回のIMG派遣でした。

KGAのジュニア活動も、IMGアカデミーのプログラムやJGAナショナルチームのプログラムを取り入れ、さらなる発展を目指します。

IMGアカデミーの恵まれたゴルフ環境で派遣選手の収穫は大きかったようです。







JGAナショナルチームのメソッドで「TEAM KGA ジュニア」の強化合宿

平成30年2月10日（土）～12日（月祝）、「TEAM KGA ジュニア」クラスS選手を対象に、JGAコーチ研修会、合同体力強化合宿のメソッドを取り入れた強化合宿を茨城ゴルフ倶楽部で実施し、競技シーズンに向け技術の向上を図りました。

JGAナショナルチームのG・ジョーンズ・ヘッドコーチ。

「TEAM KGA ジュニア」では技術指導のプログラムを目的別に「個々のレベルアップのためのプログラム」と、「試合に向けた準備のためのプログラム」の、大きく2種類に分けています。

また、技術レベルに応じて5クラスに分け、それぞれのレベルに適した指導を行っています。

JGA コーチ会議報告書 G・ジョーンズヘッドコーチの指導方針

平成30年1月25日（木）～27日（土）に宮崎シーガイヤリゾートで、JGA 8地区強化プログラムの関係者を対象とした、コーチ会議が実施されました。

JGAナショナルチームのヘッドコーチであるガレス・ジョーンズ氏の指導プログラムを、各地区連盟も共有することで、オールジャパン体制で日本全体のレベルアップに繋げることを目的に、初めての実施となりました。

今回はジョーンズヘッドコーチの指導理念や、具体的なプログラムについて、講習で紹介された内容の、ごく一部ですが報告します。

■指導にあたって

大切にすべき6項目

1 スマートフォンで何でも簡単に調べられる時代ですが、選手たちには「何でそうなのか?」と、ジュニアに探究心や好奇心を与える指導をすること。

2 チームで活動することが重要で、その中で年上が年下を教える文化や風土を創造 していくこと。

3 選手たちに安全に挑戦できる環境を提供すること。

4 競技成績を追及するのではなく、ゴルフを好きなまま成長させること。

5 人間的にもゴルファーとしても、成長できるプログラムを提供すること。

6 指導者たちも、良いチームワークで活動すること。

■競技にあった練習をする

ゴルフという競技は、65％がショートゲーム、35％がロングゲームです。ラウンドではドライバー・ウェッジ・パッティングの3項目が特に大切です。

例えば6番アイアンを重点的に練習しても、統計的にバーディーチャンスとなる確率は低いと出ています。

逆にデータ分析の結果、試合で40ヤード以下のショットを打つケースが多ければ、そちらを練習したほうが良いスコアに繋がります。

練習では難しいけれど、チャレンジすれば届く範囲に目標設定することが大切です。また体力面や集中力の面で良い状態が保てる範囲で、練習することかも大切です。

■練習（準備）の質を高める データを根拠にした トレーニングプラン

1 データを収集して分析する

2 データを基に練習プランを作り準備する

3 コース上での戦略を作る

4 組み立てたプランを実践する強い気持ち

重田栄作「TEAM KGA ジュニア」テクニカルコーチ

「TEAM KGA ジュニア」では、今までシステム化せずに行っていたことを、ナショナルチームのマニュアルやドリルを参考に整理して、より効率よく効果的な指導をしていきます。

渡邉大貴「TEAM KGA ジュニア」フィジカルコーチ

トレーニングにおいても限界を少し超えるところで、トレーニングを積み重ねることが必要だと感じました。JGAの合宿でのトレーニングが、KGAでのトレーニングより楽に出来るレベルまで、選手のフィジカルを上げていきたいと思います。

笠川喜久男 ジュニア育成委員会強化部会長

選手と同じ目線に立ち、選手が自ら考えて行動できる選手の育成が、共通認識として持つべき考え方でなので、「TEAM KGA ジュニア」の活動の中でも実践し、また、各専門委員やJGAとの連携を一層深めて、選手の指導にあたっていきます。

平成30年　関東グランドシニアゴルフ選手権　決勝競技

不屈の男、北原弘選手が第1ラウンドの貯金で連覇達成！

これが70歳以上の競技かと思われるほどの、ハイレベルな競技となった。決勝第2ラウンドは初日を終えて3アンダーの69でトップに立った昨季王者の72歳・北原弘選手を、79歳の小林祺一郎、73歳の石井重次、71歳の矢吹元良各選手が、いずれも1打差で追う展開。

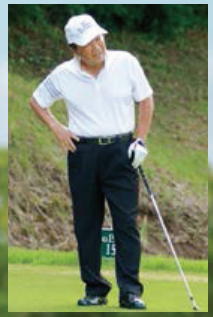
晴れ、気温26度の絶好のコンディションで大会初のアンダーパーが期待される中、2バーディー、3ボギーの73で回った北原選手が逃げ切り、2位に2打差のトータル2アンダーで、見事に連覇を果たした。

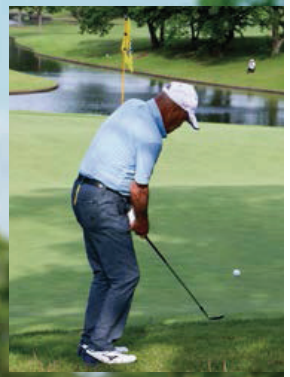
優勝の行方は最後の最後まで分からなかった。首位に立っていることを17番で知った北原選手は、18番パー5の第2打を、左に曲げて池ぎりぎりのラフに入れ、さらに第3打もグリーン手前の池の縁へ。ぎりぎりラフでとどまった第4打を2mに寄せてウイニングパットを決めると、応援に駆けつけた妻のむつ子さんと、満面の笑みで祝福しあった。

「以前に初日トップで2日目に崩れた経験があった。今回は友人に『自分のゴルフを貫け』と言われ、静岡の倶楽部対抗でよく会う仲間とのラウンドだったから、緊張せずに楽しく回れた」

40代で大腸がんの手術を受け、それからは自宅マンションの10階までの階段を連日10往復し、今では「体力的なハンディを感じない」と言うまでになった。「アンダーパーは大会初？　自分はいつもエージシュートを目標にやっているから」と北原選手。不屈の精神で日本グランドシニアに立ち向かう。（取材・文　鈴木遍理　KGA広報参与）

昨年に続き関東グランドシニア連覇達成の北原弘選手。緊張しそうな局面でも笑顔で競技を楽しんでいる様子。手術をともなう大病の治療でも、この気持ちの余裕は有効だったでしょう。





グッドルーザーの2人

昨年から関東グランドシニアに参戦の櫻井延秋選手は本競技2位タイ。04年関東シニア優勝。08年関東シニアと10年日本シニアでは2位タイでした。

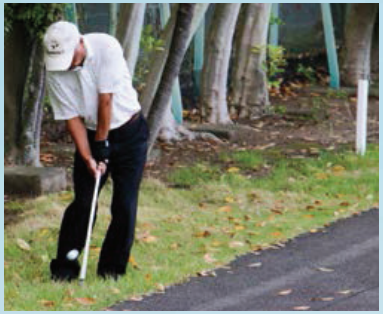
2位タイの小林祺一郎選手は08年関東ミッドシニアと10年、14年関東グランドシニアで優勝。08年日本ミッドシニアは2位、09年日本グランドシニアで2位タイ。まさに「グッドルーザー（誇り高き準優勝者）」です。

6月1日の天候　晴れ／気温：26.0度／風向：南南東／風速：3.0m/s

レイクウッドゴルフクラブ東コース（神奈川県）
6374ヤード・パー72
5月31日（木）～6月1日（金）
エントリー142名 出場136名

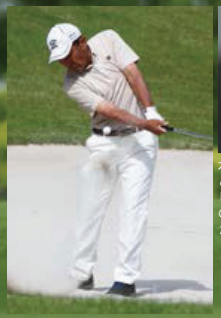
決勝競技入賞者

ランク	名前	所属	1R	2R	Total
1	北原 弘	伊豆にらやま	69	72	142
2	櫻井 延秋	新千葉	71	72	144
2	小林 祺一郎	富士チサン	70	74	144
4	宇佐見 則男	高根	73	72	145
4	矢吹 元良	ゴールデンレイクス	70	75	145



シニア、ミッドシニア、グランドシニア競技で、幅広く活躍する矢吹元良選手。第2ラウンドの最終18番は池につかまる。第4打でOBは避けられたものの（写真）結果はダブルボギーで万事休す。

第2ラウンドで自己ベストの72でエージシュートを達成。ゴルフウェアを押し上げるような宇佐見則男選手の筋肉は、とてもグランドシニアの選手とは思えません。今後の活躍に期待。



水戸の、関東の、日本の“鉄人”こと中村清選手。82歳の最年長にしてエージシュート記録は“普通”のこととか。2年前の本競技では2位に4打差の圧勝。

撮影・久保田昌幸KGA広報委員、冨澤 仁KGA広報委員

平成30年　関東女子グランドシニアゴルフ選手権　決勝競技

バレー＆ゴルフの武田妙子選手 台所のパット練習で二代目女王に

台風5号の通過にともなう悪天候で、第1ラウンドのプレーは中止。「第二代女王」の座は、18ホールのみの成績で争うことになった。

舞台となった磯子カンツリークラブは、横浜市中心部からほど近い丘陵地の地形を巧みに生かしたレイアウトを持つ。打ち上げ、打ち下ろしの距離感の難しさに加え、60年近い歴史が刻んだ微妙なアンジュレーションが、選手を苦しめた。

1ラウンドだけの「短距離走」を制したのは、「台所パット」の練習を積んできた61歳の武田妙子選手だった。

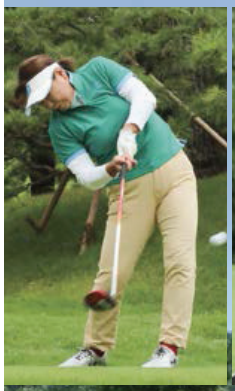
ご主人と二人暮らしの武田選手は「料理って案外、待ち時間があるの」と言う。調理台の後ろのスペースにパット練習用マットを敷き、料理が煮え、湯が沸くまでのわずかな時間を利用して、球を転がす。「これで1日30～40回はパット練習ができる」と武田選手は笑う。

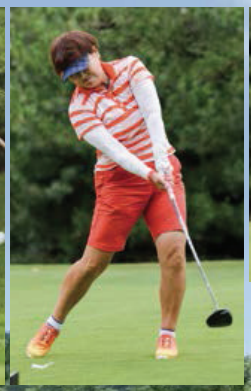
この練習が生きたのが、上がりの3ホールのグリーン上だった。距離はないものの、上や横からの微妙なラインが残った。「しっかり打つことがポイント」と強気のパットを次々と決め、1打差で頂点に立ってみせた。

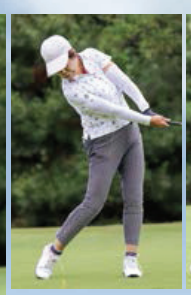
茨城県日立市を拠点に、中学時代からママさんチームまで、武田選手はバレーボール一筋だった。だが30歳のころ、筋力アップで腰痛克服につながると、医師からゴルフを勧められ、夢中になる。「タダで練習できるから」と45歳の時、水戸市内のゴルフ練習場に勤めたことで上達に拍車がかかった。

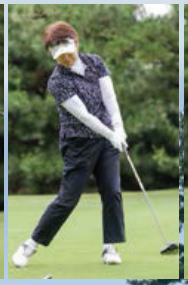
競技を通じて、仲間も増えた。表彰式で武田選手は「（初代優勝者の）増田京子さんの次に名前が刻まれることがうれしい」と、あこがれてきた先輩の名前を挙げて感激の涙を流した。（取材・文　高岡和弘KGA広報委員）

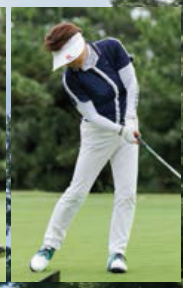
左から。4位タイの中山嘉子と平野いずみ。2位の林恵子。優勝の武田妙子。3位の菊池文子。4位タイの富田ヨネ子と増田京子。※富田ヨネ子は70歳以上の部の優勝者。ショット写真も左から同順です。









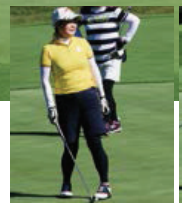


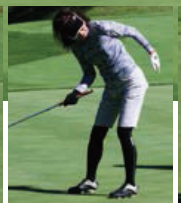
磯子カンツリークラブ
（神奈川県）
5585ヤード・パー72
6月12日(火)、6月11日は中止
エントリー144名 出場135名

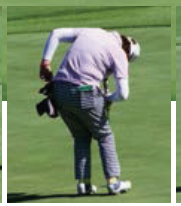
撮影・大竹 茂KGA広報委員

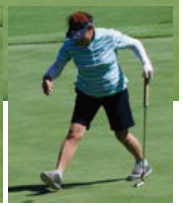
決勝競技入賞者

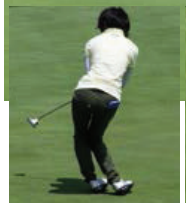
ランク	名前	所属	Total
1	武田 妙子	水戸グリーン	74
2	林 恵子	総武	75
3	菊池 文子	岡部チサン	76
4	中山 嘉子	カレドニアン	77
4	平野 いずみ	南摩城	77
4	増田 京子	筑波	77
4	富田 ヨネ子	千葉新日本	77

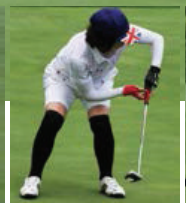


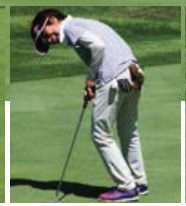


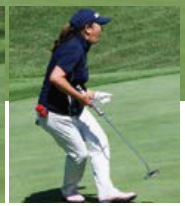


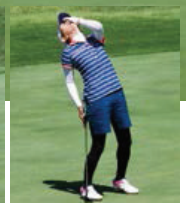










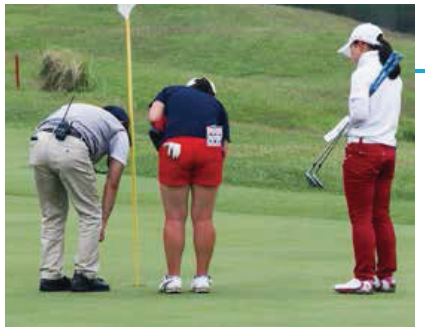


6月12日の天候　晴れ／気温：24.2度／湿度：77%／風向：東／風速：2.5m/s

Chip Shots
KGAトピックス

カップ直撃の結果は弾かれて加速し遠くへ

関東女子の第3ラウンド、最終組で優勝を争っていた高久みなみ選手。ホウライCC9番ホール（パー4）の第2打が、カップの縁を直撃。ボールはホールの縁をわずかに崩して、手前6メートルほどへ遠ざかってしまいました。そこから2パットのバー。崩れたホールの縁は、競技委員が速やかに修復しました。


幸い簡単な修復作業で、競技が再開できました。

3D（立体）グリーンは想像力でパットを

ホウライCC18番グリーンの、関東女子の第3ラウンドのホールロケーション。ホールの右3～4ヤードには、高低差70～80センチのきつい下り傾斜が待っています。

この段差のパットに挑戦した選手は、数人だったでしょう。その結果が気になったか、内藤競技委員長は近くにいる競技委員に問い合わせていました。「どんなパットをしたの？」と。

若い選手は大きな段差を越えるパットなど初めてだったでしょうが、驚く様子もなく〝フツー〟に寄せていました。

10回出場

関東女子決勝競技、10回出場の表彰を受けた田中博子選手。30代になってから本格的な競技ゴルフに挑戦し、関東女子には11年連続で挑戦。うち予選カットは1度だけと、素晴らしい成績。2010年関東女子ミッドに優勝。

「30代で始めた競技ゴルフでは挫折したこともあります。もし30代になってもアマチュアでおられるのでしたら、私のことを思い出して、また競技ゴルフに戻ってきて下さい」

特別表彰

関東グランドシニア決勝競技、特別表彰の選手各位。

エージシュート

関東グランドシニア決勝競技、エージシュート達成の選手各位。

関東グランドシニア決勝競技　特別表彰

●**25回出場** 中村清（水戸）●**20回出場** 河本徳三朗（相模原）●**15回出場** 今井喜平（相模原）、櫻井延秋（新千葉）、白井旭（相模原）、白井敏夫（総武）、竹村昭雄（嵐山）、藤城悠（ディアレイク）●**10回出場** 小野進（龍ヶ崎）、金田昌富（筑波）、指田博（多摩）、佐野勝勇（富士御殿場）、谷猛夫（東松山）、西田豊明（富士小山）

コース設計の“魔術師と王様”の競演？

ホウライCC（左）を設計したR・V・ヘギーは「光と影の魔術師」と呼ばれます。レイクウッドGC（右）はT・ロビンソンの作品で、池・滝・小川の巧みな演出で「水のキング」と称されます。2人の世界的なコース設計家による、那須の山と湘南の海の“日本の味”が感じられるでしょう。

池と森と富士山と湘南の風でラウンド

レイクウッドGCで開催された関東グランドシニア決勝競技。第1ラウンドの5月31日朝の富士山は、山頂まで黒い岩肌でした。翌日の快晴の6月1日朝は、おや？　山頂が冠雪です。6月の雪は珍しいとか。「ツツジの赤い花と白雪の富士山のコントラストは、ちょっと〝インスタ映え〟かな」と、出場選手も楽しんでいました。

5月31日

6月1日

180度の大パノラマです。

あれ？　錆びたような模様の鯉は新種かな？

レイクウッドGCのレイクでハイブリッド（雑種）鯉が可愛がられています。真鯉と錦鯉の交配で、ペット動物と同じように〝キモカワ（気持ち悪いけど可愛い）人気〟です。

錦鯉の鮮やかさとは違って、観賞用には？

頑張れ！　社会人選手　関東アマで特別表彰

今回で関東アマ決勝競技20回出場の表彰を受けた金田浩延選手。感想は？

20回出場

「周りは自分の息子（中3）みたいな選手ばかりで、よくやってるなって思います」（笑）。

今年、本決勝競技の10回出場の表彰を受けた川崎邦朗選手。KGA競技は30歳を過ぎて、倶楽部メンバー（龍ヶ崎）になってからの挑戦。

10回出場

競技経験豊富な金田選手（上）と川崎選手（下）。年齢は金田選手が2歳年長です。

関東女子グランドシニア、70歳以上の部第1位の富田ヨネ子選手（71歳）のお話。

「KGA競技出場は、4年前の関東女子シニア以来です。今回が人生最後の競技ゴルフだと思って、チャレンジしました」

61歳で初めてシングル入りし、今のハンディは7。年齢に逆らって成長していると笑顔。4位タイの77はお見事！

★

最年長出場の望月和選手（78歳）は「アプローチは良かったけれど、3パットばっかり。来年は（数えで）80歳になるから、80歳以上の部ができないかしら。年間80ラウンドを目指していて今月（6月）は、9ラウンドするのよ」と、元気そのもの！

70歳 第1位

最年長

名前も楽しい焼きそば「びんそば」が大人気です

関東女子グランドシニア決勝の舞台、磯子CC。昼食時、来場者の7割近くが注文するのが「びんそば」という名の五目あんかけ焼きそばです。チンゲン菜をグリーン、ウズラの卵をボールに見立てています。

料理長の陳啓鴻さんによれば「スープが魂です」とのこと。鶏ガラ、豚骨、鶏肉を毎日、4時間も煮込んだスープです。野菜や海鮮類を加え、オイスターソースなどで味を調えます。独特の細麺がまた、うまい！

お土産には磯子CC名物、大人気の焼売はいかがですか。当日のお土産のオーダーは14時頃までにフロントまたは2階の食堂へ。

陳料理長オススメの「びんそば」は1600円。

焼売（大）18個入り3,402円、（中）12個入り2,268円、（小）8個入り1,512円。

高度な戦略性を誇るコースと実戦用ショートゲームエリアを併設

ザ・インペリアルカントリークラブ

コース設計●マーク・F・ラザート
（10619Yards Par108）

The Imperial Country Club

〒300-0508
茨城県稲敷市佐倉1324-1
電話●029-892-1177
FAX●029-892-2377
HP●http://www.pacificgolf.co.jp/imperial/

開場●1996年11月24日
理事長●田中 耕太郎
支配人●髙村 知彦

当倶楽部は、都心より50分圏内。霞ヶ浦の南、茨城県稲敷市に位置し、最寄りインター（圏央道・稲敷ＩＣ）よりわずか10分の好アクセスも魅力の一つです。

コースは27ホール・3コース。そのほとんどがフラットで広いフェアウェイを持つことが、最大の特徴となっております。

また、距離も充分あり、戦略性を高めるバンカーが数多く点在し、その数は１００以上。女性やシニア、さらには飛ばし屋アスリート系ゴルファーまで、幅広いゴルファーにご満足いただけるコースとなっております。

特に会員様に人気なホールとしては、中コース9番ロングホールが挙げられます。バックティーからは６００ヤード以上。セカンドショット以降はコース左手に、グリーン手前まで長く横たわる池がプレッシャーを与え続け、さらにグリーンの周りには堅牢なガードバンカーが口を開けて待っています。飛距離に加え正確性も要求される、当倶楽部でも最難関といえるホールです。

また、開場20周年の節目、平成28年10月に新設された練習施設「インペリアルゴルフガーデン」は、１８０ヤード20打席の屋根付きドライビングレンジを有し、最大の特徴は広いアプローチエリアと大きなバンカー付きの、ショートゲームエリアです。

ドライビングレンジと実戦ショートゲームの充実した練習施設を完備。

天然芝から2面あるグリーンへの本格的な練習が可能となっており、所属プロの充実したレッスンプログラムも好評です。さらにこちらの練習場は、プレーヤー以外の一般外来のお客様も受け入れており、国道からの専用入り口と駐車場を完備しております。クラブハウス前にも練習場へ向かう、専用カートをご用意いたしております。ご来場の際はぜひ、ウォーミングアップにお立ち寄りください。

この度、関東ゴルフ連盟の正会員として加盟させていただきましたことに誇りと責任を持ち、ご来場いただく会員様・ゲストの皆様に、常にご満足いただける倶楽部となれますよう、スタッフ一同邁進いたしてまいります。

今後とも何卒、よろしくお願いいたします。

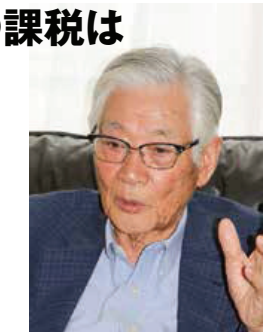
中コース9番ホール

西コース 中コース1番ホール

西コース8番ホール

ゴルフ場利用税の撤廃を！

生涯スポーツ「ゴルフ」への課税は世界に例のない悪法です！



お話し・羽佐間正雄さん
全日本ゴルフ振興会議委員。1987年全米スポーツキャスター協会賞の特別賞受賞。

―ＮＨＫスポーツ中継のアナウンサーとして、歴史に残る名場面を数多く実況された羽佐間さん。今回のテーマはゴルフ場利用税の撤廃なのですが、まずはご自身のゴルフについてお聞かせください。

羽佐間　ＮＨＫに入局して、最初の赴任先が山口でした。昭和29年暮れにご縁があって、毛利庭園内にあったゴルフ場を、自由に使えたのです。文字どおり毛利家のプライベートコース（練習場完備）で、費用もかかりません。

―その昭和29年の4年前の昭和25年に、娯楽施設利用税（1日千百円）が課税され始めました。

羽佐間　山口での4年間は自己流ゴルフでしたが、広島に転勤すると、そこもゴルフ天国でした。近所にはいいゴルフ場がいくつもあり、市中には小さい練習場も多くありました。

福井覚治氏（日本のプロゴルファー第1号）のご長男が経営する練習場で初めて、打ち方の基本を手ほどきしてもらいました。そこに広島カープの選手たちを誘っては、暇があると通いました。

こうしてゴルフのおかげで、交際が広がりました。ＮＨＫアナウンサーの先輩、宮田輝さんや高橋圭三さんには、よくラウンドにお誘いいただきました。

―戦後間もなくの当時なら、ゴルフは特権階級の遊びとされても、仕方なかったでしょう。それでも娯楽施設利用税を、課される理由にはなりませんけど。

羽佐間　そうですね。私は薄給の若いサラリーマンでしたから、娯楽施設利用税の負担は大きかったです。道具にしても、小遣いを貯めて、やっとの思いでハーフセットが買えた時は、それは嬉しかったですね。それから60年経った今も、そのハーフセットが捨てられずに、しまってあるんです。

―贅沢品への物品税は、世界に先駆けて日本が昭和12（１９３７）年に導入しました。クラブを含めゴルフ道具全般に、当初は40％もの重税が課されたのです。

羽佐間　プレーにも道具にも、課税の艱難辛苦を乗り越えて、それでもゴルフはやめられませんよ。

―スポ根（スポーツは根性）は、実況中継にも通じますね？

羽佐間　64年東京オリンピックでは、ハンセン（米国）とラインハルト（独）の棒高跳び中継を担当しました。なんと5時間半におよぶ死闘は、スポーツ史に残る名勝負として語り継がれています。

69年の夏の甲子園（第51回全国高等学校野球選手権大会）は、愛媛の松山商業と青森の三沢高校との決勝戦となりました。延長18回、両校譲らず史上初の再試合となった激戦。この名勝負も私が中継を担当しました。翌日の再試合で、三沢の太田幸司投手に疲れが見え、2対4で敗れました。

ゴルフでは80年全米オープンの青木功と、Ｊ・ニクラスの一騎打ち。ゴルフ世界史でも五本指にランクされる名勝負〝バルタスロールの決闘〟を中継しました。忘れえぬ感動でした。

―選びにくいでしょうが、ご自身のベスト（中継）ゲームは？

羽佐間　ジャンボですね。88年日本オープンは東京ＧＣが舞台。ＡＯＮが三つ巴で優勝を争い、尾崎将司プロが優勝を決めた最後の短いパットで、手が動かなくて二度も仕切り直し。同じゴルフをやる者として、胸が締め付けられる思いでした。

―スポーツ、特にゴルフに対する羽佐間さんの熱き心が伝わってきます。

羽佐間　平成23年にスポーツ基本法が制定され、２０２０年には東京オリンピックを控えているのに、生涯スポーツであるゴルフに、ゴルフ場利用税を課税するとは、めちゃくちゃな話ですよ！

―お相手・松本秀夫さん（ＫＧＡ総務委員会税対策部会委員）

from

Kanto Golf Association

一般社団法人 関東ゴルフ連盟
第2回定時社員総会が開催されました

平成30年6月29日（金）、ホテルグランドアーク半蔵門にて、第2回定時社員総会が開催されました。総会の第1号議案は、平成29年度事業報告並びに決算報告案の承認を求める件。第2号議案は、平成30年度事業計画並びに収支予算案の承認を求める件。第3号議案は、理事選任の件。

第1号議案の事業報告、第2号議案の事業計画とも、8委員会の委員長自ら報告しました。委員長が欠席でも委員会担当の正副理事長が代弁し、スムーズな議事進行で3議題とも承認されました。

左から。酒巻ゴルフ振興支援委員長、菅総務委員長、小宮山副理事長、髙橋理事長、池谷副理事長、佐藤副理事長、内藤競技委員長、吉田広報委員長。

KGA GOLFER'S NEWS No.127

2018年7月31日発行
KGA GOLFER'S NEWS No.127
発行所/関東ゴルフ連盟
〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番11号
銀座SCビル4階
TEL 03-6278-0005 FAX 03-6278-0008
ホームページ http://www.kga.gr.jp
発行人/髙橋正孝　編集／広報委員会

編集後記

日本女子アマチュアゴルフ選手権で、吉田優利選手が優勝した。彼女は、小学生大会に優勝して、最初にIMGアカデミーへ派遣された一人。「TEAM KGAジュニア」2期生で、ナショナルチームに選ばれてからは悔しい思いもあったがこの優勝。小学生の頃から見てきた広報委員の方々も大喜び！

それにも増して、KGAのジュニア育成委員会を組織した方、同委員会で育成に関わってきた皆さん、おめでとうございます！

そして「TEAM KGAジュニア」の選手諸君、後に続け！

（広報委員長・吉田裕明）

KGA定時社員総会の終了後
懇親パーティーが開催されました

平成30年6月29日（金）、第2回定時社員総会の終了後、ホテルグランドアーク半蔵門にて懇親会が開催されました。髙橋理事長のご挨拶では「1都10県のゴルフの活性化」を第一の目標に掲げ、山中JGA専務理事のご祝辞では「KGAの協力・支援に感謝」の言葉が添えられました。続いて、小宮山副理事長の乾杯のご発声で宴が始まりました。

今期で勇退された皆様（壇上にお揃いの牛込公一郎様、宮坂久臣様、河本徳三朗様）のご挨拶には、長年の功労への感謝を込めて、ひときわ大きな拍手が送られました。

奇しくも当日、日経電子版（日本経済新聞社のホームページ）に、ゴルフジャーナリストの地平達郎氏が執筆された『関東倶楽部対抗に見たゴルフの厳しさと楽しさ』が掲載され、会場の話題になっていました。

引退された功労者各位。左から。牛込公一郎様、宮坂久臣様、河本徳三朗様。

第2回ゴルフ場におけるサステナビリティ講習会が
開催されました

平成30年6月25日、『第2回ゴルフ場におけるサステナビリティ講習会』が、埼玉県の日高カントリークラブにて開催されました。

当日のプログラムは、縣和一九州大学名誉教授による『大気の浄化と温暖化防止に寄与するゴルフ場～ゴルフ場のCO_2収支～』。続いて、牛木雄一郎KGAグリーン委員会参与の講義で『日本型サステナビリティを探る』。経済性からは、一般社団法人エコステージ協会東京理事の山内優氏の講義で『CO_2削減等環境対策と行政助成金について～SDGsに照らし合わせたゴルフ場の責任と役割～』。

最後に実務の観点から、日高カントリークラブの大野慎一郎グリーンキーパーの報告で『日高CCにおけるサステナビリティの取り組み』。地球環境に優しいゴルフコースこそ、22世紀にも存続するという基本理念に、参加者各位は真剣に受講されていました。（第1回ゴルフ場におけるサステナビリティ講習会につきましては、本誌18ページ～20ページに詳述しています）

訃報
吉田友明様がご逝去されました

平成30年1月29日、第10代関東ゴルフ連盟理事長、吉田友明様がご逝去されました。平成15年から平成20年の理事長在任中は多くの課題に取り組まれるなど、粉骨砕身でご尽力されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

日本人が考案したヘッドカバー

頑丈そのもの。

ゴルファー誰しもが愛用するヘッドカバーは、実は日本人ゴルファーが考案した世界的なゴルフグッズであることはあまり知られていない。「もし、僕が特許をもっていたら……。大金持ちになっていたね」考案した高畑誠一さんはお元気な頃、そんな冗談を口にしていた。

話は明治の末期に遡る。神戸高商（神戸大学）を卒業した高畑さんは、貿易商社の鈴木商店に入社し、ロンドンの駐在員になった。時あたかも第一世界大戦中で、英国の名門倶楽部は閑古鳥が鳴いていた。高畑さんは首尾よく伝統あるアディントン倶楽部に入会でき、存分に楽しんだという。

その倶楽部にはクラブ造りのうまいプロがいて、バーシモンのドライバーを造ってもらった。だが、ヘッドが傷つくのを警戒して、高畑さんは使い古しの黒い靴下を被せていた。その後、倶楽部の女子従業員に黄色い靴下を編んでもらい、これを使いだした。

これが英国のゴルフ界でいつしか話題になり、ヘッドカバーが出回り始めた。当時、高畑さんと同時期、ロンドンに駐在していた福富さん（元宝塚GC会員）は「高畑さんが靴下を被せていたのはよく見かけました」と語っていた。傷つくのを避けようとしたのは、日本人の物を大切にする優しい心の表れだろう。

雨の日、キャディーさん手作りのヘッドカバーでお・も・て・な・し。

今日のヘッドカバーはメーカー特製のものが多いが、かつてはゴルフ場で働く女性キャディーさんお手製ものが珍重された。毛糸の手編みで、持ち主のイニシャルを刺繍したり、先端にボンボンをつけたり、ふさふさだったりで、古いゴルフ倶楽部にはそれぞれ編み方に流儀があり、親しい会員にお礼の印として贈り物にしていた。

英国から出版されているゴルフ百科事典に、若い日本のビジネスマンが考案したと明記されている。ついでながら大正10年、昭和天皇が渡英され、英国のプロの模範プレーをご覧になられたが、これをアレンジしたのは高畑さんだった。

（文責・福島 靖 KGA 広報参与）

ボロボロのカバーですが、使用者は女子ジュニアです。

高畑 誠一（明治20年3月～昭和53年9月19日 1887～1978）
元JGA理事、関西ゴルフユニオン創立者、元日商会長。

英国駐在中、英国プロの指導を受けて上達。関西ゴルフユニオン設立を提唱するとともに、JGA理事として尽力。日本アマ、東西対抗で活躍した。ゴルフ規則にも造詣が深く「ゴルフルール百科全書」という解説書を発行し、ルールの普及に努めた。